

市制施行 20 周年記念事業
伊豆の国市こども議会

令和 7 年 8 月 21 日（木）

伊豆の国市こども議員名簿

	学校名	氏名	題名	グループ
1	長岡南小学校 5 年	たなか ゆうな 田中 優奈 (こども議長②)	自然豊かで笑顔があふれている伊豆の国市	A
2	韭山小学校 6 年	よしだ あいく 吉田 愛空	誰もが楽しく過ごせるまち作り	
3	大仁中学校 1 年	ふるや かずのり 古屋 一 矩	観光をより豊かにさせるために	
4	長岡中学校 2 年	うちだ かれん 内田 香 伶	伊豆の国市を活気の溢れるまちにするために	
5	韭山小学校 5 年	なかの あんじ 中野 杏思	人口が多くにぎやかな街に	B
6	長岡南小学校 5 年	たきした みゆう 瀧 下 美 優 (こども議長③)	年齢や障害の有無を問わず、だれもが楽しく暮らせるような伊豆の国市に	
7	大仁中学校 1 年	やまぐち み き 山 口 美紀	活気あふれる伊豆の国市に向けて	
8	長岡中学校 2 年	ながしま あいか 長 島 瞳 花	よりよい伊豆の国市を目指して	
9	大仁中学校 2 年	み わ きよひろ 三 輪 粹 寛	伊豆の国市を市と市民が理解しあえる活発的な街にしたい	C
10	長岡南小学校 5 年	みつはし あらた 三 橋 新	災害のない安全な街	
11	長岡北小学校 6 年	よしはし りん 吉 橋 璃	伊豆の国市の人口と観光について	
12	大仁中学校 1 年	あらい とうご 新井 統 吾	最高の居場所を目指して	
13	韭山中学校 2 年	おおむら かすみ 大 村 夏 澄 (こども議長①)	第三の居場所で心も体も快適に！！	

※A グループ発表時はこども議長①（大村）が進行する。

※B グループ発表時はこども議長②（田中）が進行する。

※C グループ発表時はこども議長③（瀧下）が進行する。

自然豊かで笑顔があふれている伊豆の国市

長岡南小学校 5 年 田中優奈

私は伊豆の国市を、「自然豊かで笑顔であふれているまち」に、したいです。

なぜ自然豊かで笑顔あふれるまちにしたいかというと、今伊豆の国市には、ゴミが町中に落ちていることを見かけることがあります。

なので、環境に良くないということです。環境に良くないということは、生き物や、私たちが困るという問題があります。そのため、自然にも、よくないということにもなります。なので私は、自然豊かなまちになると、いいとおもいました。そのため私は、自然豊かな街にするために、2つのことを提案します。

1つ目は、「リサイクル」です。例えば、最近「ビンポカリ」と、いうものがあります。それはポカリの容器がビンになりその容器を返すと「70 円が戻ってくる仕様」になっています。そのビンポカリのような工夫を、伊豆の国市でもして、ごみを減らせたらいいなと思いました。他にもたくさんの人がエコバックを使っていると思いま

す。なので、レジ袋を使っている人が、少なくなりました。何でも極限まで使うことができたらいいなと思いました。なので、たくさんリサイクルすることで、ごみを減らすことにもなります。ごみを減らすと町がとてもきれいに、なります。なのでリサイクルとはプラスなことしかありません。今はリサイクルボックスなどのリサイクルできるところがあります。でもリサイクルしている人は少なく見えます。なので伊豆の国市でリサイクルできるところが増えたらとても環境によくなり自然豊かな街になるのではと思いました。なので私はリサイクルをしたほうが良いと思いました。

2つ目は、植物を増やすことです。私は植物を公園や町中に増やすことで、伊豆の国市が明るく見えたり、キレイに、見えたりすると思います。伊豆の国市で植物に関係するイベントを行い伊豆の国市の住民の方にも楽しみながら、自然が増えるとよいのではないかなと私は思いました。植物を増やすことで伊豆の国市がとてもよくなればいいなとおもっています。

私が大人になるとときには、「伊豆の国市がとても住みやすく自然豊かで笑顔があふれている。」そんな街になっているといいなと思いました。

誰もが楽しく過ごせるまち作り

韮山小学校 6 年 吉田愛空

私は伊豆の国市を誰もが楽しく過ごせるようなまちにしたいです。そんな伊豆の国市の魅力は自然や歴史、文化があふれているところだと思います。そんな魅力あふれる伊豆の国市にはたくさんの課題があります。その中で特に私が気になったことは人口が減っていることです。しかも、最近ではお年寄りが増加している反面で子供が減少していることが人口の減少にかかわっているのではないかと思います。この人口の減少により今では働く人が減っているというのともわかんと思います。実際に、私のお父さんの会社では人員不足が深刻な問題となっています。

そこで私は今の子供たちやまだ職業につけていない大人たちが自分に合った職業につけるように誰もが参加できる職業体験会を行うことを提案します。この職業体験会は子供だけが、大人だけがではなく子供も大人も、誰もが体験できる場所だと考えています。また、法律で「使用者は児童が満 15 歳に達した日以降の最初の 3 月

3 1 日が終了するまで、働いてはいけない」と決まっています。それにともなって、15歳以下の方は保護者同伴にすれば小さいお子さんでも体に不自由がある人でも行きやすいと思います。また、働いている大人も同伴することで今の仕事からまた、新しいことへ目を向けることができると思います。

ですが土地はどうするの？お金はあるの？という不安の声もあると思います。ですが私は「伊豆の国市」のお店を経営している方々、市民である私たち、全員が協力すれば解決できると思います。例えば、土地だったら実際に経営するお店の中で開催したり、空き家を活用したりすれば問題ないと考えます。それに伴ったお金は私たち市民が納めている、税金でおぎなうことができると思います。

このように一つの問題に対して人と人が交わり、少しでも解決しようと協力していくのが誰もが楽しく過ごせるまち作りにつながっていくのではないのでしょうか。私は伊豆の国市を誰もが楽しく過ごせるまちにしたいです。

観光をより豊かにさせるために

大仁中学校 1 年 古屋一矩

私は、この自然豊かなまち、伊豆の国市を、住人が住みやすく、そして観光客も来やすいようなまちにしたいです。そこで、観光客を多く来させ、住人が住みやすくするには、体験型の観光のものが必要だと考え、さらに調べると、伊豆の国市内の店舗などの空き家は 50 個近くあると聞いたので、私は 3 つのことを提案します。

1 つ目は、先ほど言った空き家を利用して、民泊できるようにし、そして、短期・中期滞在できるようにし、伊豆の国市には、体験というよりも、見学のほうのイベントのほうが多いので、外国人の方々に、特産物の収穫や、しゃぎりなどの体験をさせたり、地域のお困りごと、例えば若竹狩りなどをさせ、その後、手伝ってくれた外国人の方々には地元の食材を使った料理をふるまったり、感謝などをすれば、外国人の方々にとってはとても忘れられぬ思い出ができ、土地の所有者の方は喜び、両者にとって、winwin の関係ができると考えました。ただの観光ではなく、行った場所で交流することによって、よい思い出ができると思います。なのでそのような関

係を作ってほしいです。

2つ目は、外国人の方々にインタビュー調査をする。です。外国人の方々の中には、いろいろな特技、個性を持っている人がだろうから、その中で、観光で何が必要かを直接外国人に聞いてみて、突っ込んだ意見をもらい、日本人がもともと持っている固定概念を外国人の方々に崩してもらう。話し合いの中に、外国人が入ってくるようにすればいいと思いました。そして、アドバイスをしてくれた人に何もしないのはどうかと思うので、してくれた人には、なにかアドバイザーとして何かをあげるのもいいと思います。なので、外国人からわざわざアンケートを取ってほしいです。

3つ目は、子供にも楽しくさせる。です。今のところしゃべっていると、大人しか出ていないので、子供と一緒にきた外国人の方々の子供は、暇と思うこともあると思うので、子供もなにか楽しく交流できるものを作ればいいと思います。例えば、ふれあいの場として、空き家を利用して、日本人の子供と、外国人の子供が遊べるような空間を作ってほしいです。外国人も一緒に体験したり、日本人と触れ合ったりすることで、伊豆の国市からやさしい世界になっていくのではないのでしょうか。私は、そんな誰もが協力し、楽し

く、自然豊かなまちにしたいです。

私からの提案は以上です。ありがとうございました。

伊豆の国市を活気の溢れるまちにするために

長岡中学校 2 年 内田香怜

私は伊豆の国市を活気に溢れたまちにしたいです。そこで、伊豆の国市の人口について調べてみたら年々人が減って居ることがわかりました。またなぜ、人口が減っているのかを調べたら、結婚する人や子供を産む人が少なくなっていること、伊豆の国市に入ってくる人の数より出ていく人の数のほうが多いことがわかりました。これらのことから人口が減少していることがわかりました。そこで私は伊豆の国市の人口を増やすために、4つのことを提案します。

1つ目は妊婦の方の相談についてです。子供を産む人が少なくなっているのは子供を産むのが不安、育てられるか心配になっている人が多いからだと思います。だから子供のことで不安・心配な方は市役所の方などに相談してみると心が軽くなるかもしれません。人と直接話すのが苦手な方などは LINE などでも相談ができます。ですが文章では相談者の気持ちがわかりにくいという点があります。

2つ目は子供の遊び場についてです。中高生に「子供若者アンケ

ート」をとったところ、遊び場が欲しいという声が多くありました。韮山にある共和幼稚園を子供の遊び場に変える取り組みを行っています。18才未満の方が利用できて、遊んだり、勉強ができたりします。このように建物の取り壊しをするのではなく内装などを取り換え、遊ぶ場所をつくるのが良いと思います。

3つ目は伊豆の国市のイベントについてです。伊豆の国市には面白いイベントがたくさんあります。いろんなゲームに参加するとパンがもらえる韮山の「パン祖のパン祭り」、長岡・韮山・大仁中学校の生徒一人一人が伊豆の国市をどうしたいかの思いが詰まった「あやめ祭り」、毎月1回日曜日にある、たくさんの美味しい食べ物やいろんな雑貨などが売っている「お散歩市」などがあります。

4つ目は伊豆の国市の都市交流についてです。伊豆の国市はマリーナ市の学校の生徒や海外の方と交流をしました。生徒の自己紹介、伊豆の国市の魅力を伝えたり、夏休みの過ごし方を聞いたり、マリーナ市の方々からはがきをもらったりしました。海外の方には、学校に来てもらい、給食を一緒に食べたり、折り紙をしたり、海外の学校生活や文化の違いなどの交流をしました。

これらの4つのことの改善点を見つけたり、直したりすることで

もっと活気のある伊豆の国市がつくれるのではないのでしょうか。

人口が多くにぎやかな街に

菰山小学校 5 年 中野杏思

僕は伊豆の国市を人口が多くにぎやかな街にしたいです。そこで僕は伊豆の国市の人口を調べてみたら毎年人口が減ってきているということがわかりました。生まれる人の人数より亡くなってしまう人数が多いということが分かりましたので、僕は伊豆の国市をにぎやかで人口の多い街にしたいです。

なので、人口を増やしにぎやかな街にするために 5 つのことを提案します。

一つ目は、公園などの遊べる施設を増やして欲しいです。遊べる施設を増やすことでこどもが遊べたり、ほかの県からの移住者が増えると思います。

二つ目は、イベントを開催して欲しいです。イベントがあることでほかの県から人が来て伊豆の国市を知ってもらえるし伊豆の国市を楽しめると思います。

三つ目は、移住者専用のツアーがあるといいと思います。なぜなら、ツアーをすることで伊豆の国市のよさが伝わるんじゃないかと

思います。そしたら、移住してくれるひとが増え人口が増えると思います。

四つ目は、テーマパークをつくることです。テーマパークは企業に声を掛けられなければならないけど、声を掛けられるために伊豆の国市をアピールした方がいいと思います。

五つ目に、カフェをつくることです。伊豆の国市はお年寄りが多く、若い人が少ないのでカフェをつくり若い人を呼び込むのがいいと思います。

これらのことを取り組むことで移住者が増やせると思います。

年齢や障害の有無を問わず、
だれもが楽しく暮らせるような伊豆の国市に

長岡南小学校 5 年 瀧下美優

私は伊豆の国市を、「年齢や障害の有無を問わず、だれもが楽しく暮らせるような市」に、したいと思っています。

伊豆の国市では毎年人口が減ってきており、去年は 2 3 4 9 人も、人口が減ってしまいました。このままだと、もっと人口が減ってしまうかもしれません。

なので私はまず、人口が減ってる理由を調べることにしました。

企画課の方に話を聞いてみると、「子供を産む人が少なくなっていたり、高校や大学に進学して市内を出て行ってしまうことが多い、そのせいで人口が減っている。」と、言っていました。私はその話を聞いて思いました。「では、市内に高校や大学を作って、人を呼べばよいのでは？」

ですが、実際に高校や大学を作るというのはとても難しく、現実的ではありません。大きな土地を用意したり、人を集めたり。何よりたくさんのお金が必要になります。それに、たとえ作ったとして

も、人口の減りが収まるだけで、増えることもないかもしれません。

そこで私が考えたのは、「あまりお金をかけずに、人が出ていかず、新しく人が引っ越してくるようなナニカ」ができないかを考えました。伊豆の国市にはディズニーランドや、ユニバーサルスタジオジャパンなどといった、代表的なテーマパークがありません。私自身も、近くに何もなく、休日が退屈に感じるのが、最大の悩みでした。かといって、新しく大きなテーマパークを作ることも難しいです。

なので、ディズニー（以下省略）ほど大きくなくていいので、なにか、「みんなが楽しく遊べるような施設」を作りたいと思いました。

では、あまりお金をかけず、みんなが遊べる施設を作るには、どうしたらよいか。

私が考えるのは、「空き家を利用すること」です。

商工課の方によると、伊豆の国市内にある、使えそうな空き家は、50戸近くあるとのことで、その空き家をリフォームして、みんなが楽しめる施設にできないのかな。と私は思います。空き家を使

った、みんなが楽しめるような施設を作れば、伊豆の国市から出ていく人が、少しでも減るのではないのでしょうか。空き家を使った、みんなが楽しめるような施設を作れば、伊豆の国市の知名度が、少しでも上がるのではないのでしょうか。

市役所の方は、「市で店や、テーマパークを作ることはあまりない。」

と言っていました。市の発展のためにも、いつもはやっていないことに足を踏み入れてほしいなと、私は思います。

活気あふれる伊豆の国市に向けて

大仁中学校 1 年 山口美紀

私は、伊豆の国市を活気のあるにぎやかな街にしたいです。伊豆の国市の魅力が伝わるのは主に 2 つ。交流とイベントです。

そこで伊豆の国市のイベントを調べてみたら、お祭りやイベントは観光協会がやっていて、お願いして補助金を出して、伊豆の国市がやってもらっていることや、市役所が大きいイベントを組むことがとてもないということでした。

お金や補助金、コスト削減や、テーマパークは大きな会社を作っていたり、相談があったら協力したりしていることも理由に入るけど、考えてみたら、とても簡単に人が集まる「交流」も関係しているのだなと思いました。そこで交流について調べてみると、平成 18 年に京都府の長岡京と姉妹都市関係になっていることや、モンゴルのウランバートル市、ソングノハイルハン区とアメリカのマリーナ市と友好関係になっていることがわかりました。そこで気になったのが、今の交流の現状です。それについて詳しく調べてみると、伊豆の国市では平成 17 年 8 月に伊豆の国市友好都市交流協会が設立

され、平成 18 年 11 月に京都府の長岡京と姉妹都市盟約を締結しました。平成 28 年 11 月には 10 周年記念式典を盛大に開催しましたが、令和 3 年 11 月に迎えた 15 周年は新型コロナウイルス感染症の影響により参加人数が制限され、規模縮小して 15 周年式典を開催しました。そのほか、歴史的につながりの深い神奈川県小田原市をはじめとする「北条五代」の関係市町、世界遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」の構成市町についても、様々な交流が行われています。一方、国外との都市交流では、旧伊豆長岡町において、オーストラリア国、グラフトン（現クラレンスバレー）市と、旧大仁町においてアメリカ合衆国、ゲインズビル市との交流が行われていたものの、合併を境に実質的な交流が途絶えました。

平成 26 年 6 月には、モンゴル国、ソングノハイルハン区長から在大阪モンゴル国総領事を通じて伊豆の国市長宛てに「姉妹都市」を希望する親書が届き、互いに訪問団を派遣し調査検討を重ねた結果、平成 27 年 8 月に「都市交流に関する覚書」を交わしました。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会でのモンゴル^{こく}国柔道競技代表選手の事前合宿受け入れに関する覚書も同時に交わし、相互交流やホストタウン事業を継続しています。

自治体等に対して海外との交流支援を行っている、一般財団法人自治体国際化協会や現サンフランシスコ日本国総領事館の仲介を経てアメリカ合衆国マリナー市とオンラインで意見交換を始めました。マリナー市の評議員が日本に好意的であり、双方具体的な交流事業の実施を望んだことから、令和5年7月に流行都市交流の覚書を締結しました。

なので、私は伊豆の国市をもっと人が多く、活気のある街にするために2つのことを提案します。

1つ目は、もっと交流の輪を広げることです。今の現状は海外との交流都市が2つしかありません。そのため、交流する都市や交流イベントをもっと開催すると思います。

2つ目は、市内でもっとイベントを開催することです。今はなかなか市民講座などの伊豆の国市のイベントが市内の人にも市外の人にも知られていません。なのでポスターを張り、チラシを配り知名度を増やすのはどうでしょうか。

このように伊豆の国市内に人を増やせば、もっと伊豆の国市が活気のある街になるのではないのでしょうか。

よりよい伊豆の国市を目指して

長岡中学校 2 年 長島瞳花

私は、伊豆の国市を魅力があふれるまちにしたいです。伊豆の国市には、魅力が伝わるものがたくさんあります。このまちは、自然が豊かで、多くの特産品や国指定・国登録文化財があります。そして、特産品では、ミニトマトが生産量県内 1 位にもなっています。

しかし、伊豆の国市の人口に関して調べてみたところ、伊豆の国市外から転入してくる人が 1591 人、転出してしまう人が 1682 人ということがわかりました。また最近、伊豆の国市に来る観光客の数も減っているように感じます。このままでは、伊豆の国市の人口・観光客数が減ってしまうと思います。そんな魅力のある自慢のある伊豆の国市の人々が減ってしまい、寂しいまちになってしまうのは、もったいないと思います。

そんな伊豆の国市の魅力を色々な地域に伝えるために、私が考える政策 2 つを提案します。

まず 1 つ目は、伊豆の国市の特色を活かした活動を行うことです。「まちづくり市民アンケート」を行ったところ、「自然環境がよ

いから住み続けたい」と回答した人が 40.2%でした。その結果から、伊豆の国市の自然を大切にし、観光に活かして欲しいです。伊豆の国市には、たくさんの自然があります。その自然を活かして、観光スポットやライトアップなどを作ってみたらどうでしょうか。

2つ目は、さらに伊豆の国市を PR することです。PR の方法としては 1 つ目、駅など人が多く集まるところに PR のポスター作成・掲示や伊豆の国市の史跡や名物などを紹介すること、もう 1 つは、色々な地域との交流を行うことです。現在、伊豆の国市では、京都府の長岡京市、モンゴル国のウランバートル市ソングノハイルハン区、アメリカ合衆国カリフォルニア州のマリーナ市の 3 つの地域と交流を行っています。交流を行うことは、お互いの国について知ることができます。そのため、現在行っている 3 つの地域との交流も継続しつつ、新たな地域とも交流を行うことが大切なのではないかと思います。

現在、行っている地域との交流、SNS（face book、インスタ、X）は伊豆の国市を PR できるため、継続すべきだと考えます。先ほどの観光スポットなどを SNS に投稿したら、見ていただけた方がさらに伊豆の国市に興味を持ってくれるのではないかと思います。

これらの政策を行うことで、伊豆の国市は、さらに魅力のあるまちになるのではないのでしょうか。

伊豆の国市を市と市民が理解しあえる活発的な街にしたい

大仁中学校 2 年 三輪粹寛

私は、伊豆の国市を市と市民が理解しあえる活発的な街にしたい
と思います。伊豆の国市には文化財や自然、交通などの良さがある
と思っています。

そこで、それぞれ調べてみたら、

文化財…17 種類。

自然…鮎がすむ川、豊富な特産品。

交通…東京まで 2 時間弱、新幹線や高速道路が通っている。

それに次世代を見据えた街づくりなど様々な良い政策をしていま
した。防災対策の冊子もとても分かりやすく、便利だと感じまし
た。

などなどを見るととても住みやすい市に見えます。ですが住んでい
る人数は減ってしまっています。

ここで問題点は何かを考えてみました、市に対しての認知度と、
見た目などではないかと思っています。

まずは 1 つ目の、市に対しての認知度です。私は元々あまり市に

ついて知りませんでした、なので、今回の資料のようなものを各地に設置するのはどうかと思います。広瀬プールのような子供が集まる場所などに置くとさらにいろんな人に知ってもらえると考えます。

私は実際に今回で知ったことがたくさんあります、このようなことをもっと発信しないのはもったいないと思います、ネットなどではなく、紙などで設置すれば様々な年齢層の方に知ってもらえると考えます

2つ目は見た目です。

見た目といっても何のことかわからないので2つ挙げます。

1つ目は塗装です、最近、看板などのペンキが落ちたり錆びたりしているのを目にします、伊豆の国市に来たい人が減ってしまうのではと思いました。

2つ目はカフェなどの飲食店が少ないことです、特にテラス席などを増やせば、都会から来た人の目も引けて、より景観をよくすることができると思います。

3つ目は交通です。他県や離れた場所へのアクセスはよくても、歩きなどの交通は不安な場所が多く不安に思うところがあります。

それは、歩道が狭い場所が多く街灯や信号がない場所も多く、不安に思っています。

それに、景観がいい場所を安全に歩けないことも、もったいないと思っています。

今言った3つのことを、市と市民と共有して、理解しあえる街にしたいです。

災害のない安全な街

長岡南小学校 5 年生 三橋新

僕は、伊豆の国市を災害のない安全なまちにしたいです。伊豆の国市や市、県には、東日本大震災や津波、土砂崩れなど色々な災害があります。

そこで僕は、そんな災害に備えて日頃から食料や水を貯蓄することをお勧めします。

しかし津波や地震など強さがわからない災害もあります。ですから地震や災害が来る前に食料を取るだけでなくハザードマップなどで災害が来た際に避難できる避難通路を確認することも大事だと思います。そこで、災害への対策の事について2つ提案をします。

1つ目は、地震や災害が起きた際は、できるだけ早く情報を収集することが大切です。もし災害の情報が収集できない場合とんでもないことになってしまいます。まず、情報を収集しないとなんの災害が来るかわかりません。次にどこに避難していいのかもわかりません。その結果最終的に死んでしまいます。そんなことにならないために情報収集はできるだけ早く行ったほうが良いです。

2つ目は、災害時に必要なものを準備しておくことです。災害時には、懐中電灯、懐中電灯の電池の予備、非常食、飲料、携帯ラジオ、携帯電話、携帯電話の電池、感染症対策のためのマスク、消毒液、体温計があれば大丈夫です。このような持ち物を日頃から持つておくことが良いと思います。

では、もし災害時に必要なものを準備していなかった場合どうなるのでしょうか。まず地震や災害から避難できても餓死してしまいます。また、大事な時に携帯の充電が無いときに携帯ラジオまでなかったら避難後では、もう地震の強さや津波の波の強さがわからないので死んでしまう可能性が十分にあります。

なので災害時に必要なものを準備することが大切です。このようなことをすることで、地震や災害などで亡くなった人が減るのではないのでしょうか。

なので僕は、災害のない安全なまちにしたいです。

伊豆の国市の人口と観光について

長岡北小学校 6 年 吉橋璃

私は、伊豆の国市を色々な個性を持った人が、それぞれの好きなことのできるようなまちにしたいです。伊豆の国市の魅力が伝わるものは、昔から大切にしている国登録文化財や豊かな自然だと思います。

まず、伊豆の国市に国登録文化財がどのくらいあるのかを調べてみると、十七件もありました。例えば、韮山反射炉や江川邸、願成就院などです。私は三件くらいかなと思っていたので、意外と多くて驚きました。

次に、伊豆の国市の自然についても調べてみました。私は、伊豆の国市の豊かな自然を生かした木のアスレチックを作ったらよいと思ったのですが、アスレチックを作っているのは市ではなく、企業や会社だと聞きました。しかし市は、伊豆の国市をもっと活気のある元気なまちにしたいので、アスレチックや建物を伊豆の国市に作る時には、できる範囲で支援しているそうです。アスレチックを企業や会社が作らないのは、お金が足りないのも理由に入るけれ

ど、その企業や会社で働いている人がどんどん減ってしまっていることも関係しているのではないかと思います。なぜなら、企業や会社で働く人がいないと人手が足りなくてアスレチックを作ることができないからです。また、作ったとしてもそのアスレチックで遊んでくれる子供の数も年々減っています。だから、企業や会社はアスレチックを作らないのだと思います。そこで、私は二つのことを提案します。

まず一つ目の提案は、おすすめの場所などをたくさん紹介することです。そうすることで外国の方も気になって伊豆の国市に来てくれると思います。また、伊豆の国市に来た外国の方がSNSなどで広めてくれれば伊豆の国市に来てくれる人が増えると思います。

二つ目は、大きなイベントを開くことです。イベントを開くことで別の市や県からも人が来て、その時に伊豆の国市のことを知ってもらうことで、イベントで楽しみながら伊豆の国市を知ることができるので、伊豆の国市が良いイメージになると思うからです。

このような工夫をすることで伊豆の国市にきて、伊豆の国市に住む人が増え、活気のある元気な街になるのではないのでしょうか。また、人口が増えることによってアスレチックや遊ぶ場所も作れるの

で、より楽しい街になると思います。

だから私はこのようなことをして人口を増やし、その一人一人の個性を生かせるようなまちにしていきたいです。

最高の居場所を目指して

大仁中学校 1 年 新井統吾

僕は伊豆の国市を誰もが安心して暮らせる、笑顔があふれる町にしたいです。伊豆の国市という素晴らしい場所は、全国的にあまり知られていない町です。人口は約 4 万 6 千人で少ないです。ですが、沢山の魅力があります。その魅力を知ってもらうためには、どのようなことをすればよいだろうか。

協働まちづくり課の方にこのような質問をしました。

「ニュースや SNS を使って情報発信をしているのか」

今の時代はスマホで沢山の情報を知ることができます。伊豆の国市では、フェイスブック、インスタ、X、伊豆の国市公式ライン、公式 YouTube チャンネルなど幅広い SNS を利用して伊豆の国市の魅力を発信しているとのこと。僕は SNS を利用するのはとても良いなと思いました。この SNS を利用すれば、笑顔があふれる町になると思います。SNS を利用すると、ほかの地域の方や、海外の方にも見ていただくことが可能。その情報を目にした人が実際に伊豆の国市に訪れて、伊豆の国市の魅力知り、訪れた人が SNS を使い魅力を発

信することでまた多くの人に見てもらえる。このように、SNS を活用することで伊豆の国市を知ってもらい沢山の人が笑顔になると考えます。いかかでしょうか。

ワンフォーオールといった言葉があり意味は、一人はみんなのために。僕なりの解釈は、一人一人がみんなの役に立てるように些細な事でもいいから試してみる。誰にでも優しくするとみんなが安心して暮らすことができると思います。沢山の人が交流できる環境を作ってみてはどうだろうか。

みんなの居場所を作れば沢山の出会いがあり、笑顔も増えると思うし、安心できる空間がつかれると思う。また、親を亡くした子供や、貧しい人を支える施設を設立するのはどうだろう。このような人たちは、きっと苦しい生活を送っていると思います。みんなが安心して暮らすためにはそのような人たちを支える施設を作って心の支えになると思います。施設の中にはみんなで遊べる部屋とか、夏休みなどに学生が宿題をもってみんなで勉強ができる部屋など誰もが使える施設を作って欲しいです。そうすればみんなが安心して暮らせる町になります。

僕はみんなが安心して暮らせる、笑顔があふれる町にしたいで

す。

僕の提案は以上です。ありがとうございました。

第三の居場所で心も体も快適に！！！！

韮山中学校 2 年 大村夏澄

私は、伊豆の国市を「みんなが第三の居場所を持ち、心も体も快適に過ごせるまち」にしたいです。

伊豆の国市の魅力は、自然と歴史が共存しているところだと思います。ですが、まだそのような魅力とどの年代の人もふれあうことが少ないのが課題であると思います。

そこで、伊豆の国市の小学校高学年から中学生の世代を対象とした子ども家庭センターからのアンケートの回答を聞いたところ、「遊べる場所をつくってほしい。」や「無料で遊べる場所を増やしてほしい。」というような三十箇所以上ある公園などの施設をまだ知らない様子が見られました。それに加えて「雨の日でも遊べるような屋内で集まれる場所を作ってほしい。」という回答もあり、公園など学生だけでも遊べたり、いろいろな年代の人でも利用できたりする施設を知る手段が少ないという理由や、屋内で学生だけでも利用できる施設が少ないという理由が関係してくるのではないかと考えました。今の状態は、学生が放課後の過ごすときの手段が少な

いというイメージがあり、学生にとっての居場所が学校と家以外だと限られてくる状態です。なので、おすすめの場所を世代別に伝えることとそこに行く手段を増やしていくこと、自分の思っていることを気軽に外に出せる場所を増やすことが必要だと考えました。

この三つを達成するために、今でき始めるべき二つのことを提案します。

一つは、時間帯ごと回る場所が変わる巡回バスを新たに設けることです。時間ごと場所が変わるというのは、例えば、小中学生の放課後の時間帯は公園や図書館、ふれあい施設をまわり、十七時半以降の小中学生が帰宅した後の時間帯は高校生や大人向けで塾やコンビニ（自分の最寄りの場所で降りられるようにするため）をまわるようにするということです。こうして、時間帯ごと回る場所を変えて、一人ひとりが希望する場所に行けるようにするということができます。これをするにより、自分の行きたい場所に行く手段が増えたり、時間ごと対象の年齢が異なるためバス内での出会いが増えたり、自分の知らなかった場所に行き伊豆の国市のことを知ることができたりするなどたくさんの良いことがあります。

もう一つは、「自分の悩みを紙に書くと、気持ちの整理がしやす

い」ということを踏まえて、学校や図書館、すみれやひまわりなどのふれあい施設、駅などたくさんの人の目につく場所に紙とペンを置き、その近くに紙だけでは解決できない悩みを抱える人への相談サービスの案内を貼りより快適にすることです。こうすることで、新たな第三の場所を得ることができると思います。

私は、出かける手段や悩みを外に出すための手段を増やすことと今ある場所を最大限に活用することで、心も体も快適になるのではないかと考えました。

私は、「みんなが第三の居場所を持ち、心も体も快適に過ごせるまち」にしたいです。